

Slovenia Monthly June 2024

スロベニア マンスリー

発行：在スロベニア日本国大使館 発行日：2024年7月11日



～6月の主なポイント～

内 政：欧州議会選挙の実施

外 政：スロベニアによるパレスチナ国家承認

政治

【内政】

●憲法裁判所、裁判官の昇給を決定、10年分のインフレを考慮するよう命令【5日】

憲法裁判所は、過去10年間に記録された消費者物価の上昇率合計(約26%)に相当する額の裁判官給与の引き上げを命じた。この判決は、2024年1月3日までに十分な給与を確保するという最高裁判所の命令を政府が守らなかったため、司法審議会が求めたものである。

●国民投票：3件とも支持【9日】

9日、欧州議会選挙と同時に、幫助死、選好投票制及び大麻の使用に関する3件の国民投票が実施された。終末期患者に対する死への幫助の権利は、54%以上の支持を得た。選考投票制については、70%以上の有権者が総選挙で選考投票制導入を支持した。医療用大麻の栽培と使用については66%以上が支持したが、個人使用目的の大麻の栽培と使用については51%以上が賛成した。

●リュブリャナ行政局長、ストライキ中に解任【12日】

プロップス公共行政大臣は、エリヤベツ・リュブリャナ行政局長を解任した。同行政局は5月15日、週1日から毎日へとストライキを強化した。マルコ・グルイチッチ氏が13日に局長代行に就任した。プロップ大臣は、この解任の目的は、ストライキ中でも市民が必要なサービスを確実に受けられるようにすることだと述べた。(その後、7月5日にストライキ終了協定署名)

●TEN-Tプロジェクト合理化法案を採択【13日】

政府は、TEN-T汎欧州輸送ネットワーク内のプロジェクト建設手続きを合理化する法案を採択した。こ

の法案は、優先的に扱われなければならないプロジェクトを特定し、その建設、アップグレード、調整、変更に関する手続きを短縮し、公共調達も対象としている。同法案は、TEN-Tの合理化措置に関するEU指令を国内法に移管するものである。

●クロアチアからの罰金を受けた漁業者を支援する法案を採択【13日】

政府は、ピラン湾で、クロアチアが認めていない国境仲裁裁判所によってスロベニアに与えられた海域で漁を行ったとして、クロアチアから罰金を課せられているスロベニアの漁業者を救済するための法案を採択した。漁業者は、訴訟費用と手続き費用をカバーする法律扶助及び罰金額の補償を受ける。

●ピルツ＝ムサル大統領インタビュー「政権発足から2年経っても大きな成果なし」【18日】

ピルツ＝ムサル大統領はPOP TVのインタビューで、現政権の任期の半分以上が、特に戦略的改革において大きな成果なしに過ぎたという意見を多くの国民と共有すると述べた。医療と公共部門の給与改革はどちらも未解決であるとし、残り2年間で、政府が表面的な修正ではなく、遅れていた改革を完了することを期待していると述べた。

●スロベニアの若者の政治観が右傾化、調査で判明【20日】

Friedrich Ebert 財団とマリボル人文学部による新たな国際青年調査の結果によると、スロベニアの若者の政治観は右傾化し、右寄りの若者の政治関心が高まり、イデオロギーの二極化が進んでいる。いくつかの主要な政治的立場では、これまで存在しなかった顕著なジェンダーギャップも現れている。

●世論調査、プレビリッチ欧州議員が最も人気のある政治家に【24日】

コチエウイェ市長を務めたプレビリッチ新欧州議会議員は、POP TVの世論調査で、ピルツ＝ムサル大統領を抑え、政治家人気ランキングのトップに立った。同氏が欧州議会選挙で筆頭候補を務めたヴェスナ党は支持率を上げ5位となり、民主党(SDS)が22%で引き続きリードしている。政府の支持率は34.4%と前回の世論調査より若干改善したが、48%近くが依然として政府の仕事に不満を抱いている。

●独立記念日【24日、25日】

24日、同大統領は、建国記念日の式典で、スロベニア社会が強固で包括的な共同体を構築する必要性を強調し、これが「地平線上の暗雲」に備え、生き延びる方法であると語った。

25日、1991年6月25日にユーゴスラビアからの独立のための法的足がかりとなる重要な法律が議会で可決されたことを記念する記念日を祝った。伝統に則り、祝日前夜に独立33周年を記念する国家式典が行われ、ピルツ＝ムサル大統領は大統領府を一般市民に開放し、また、コンGRES広場にある戦争犠牲者碑に花輪を捧げた。

●政府、ヴェセル欧州委員候補の指名手続きを開始【26日】

26日に行われた会議で、政府はヴェセル前会計検査院院長をスロベニアの欧州委員候補に指名する手続きを開始した、と首相府が STA に伝えた。

●スロベニア、高速道路改修に700万ユーロを受領【26日】

スロベニアは、道路インフラ整備のため、コネクティング・ヨーロoppa・ファシリティーから697万ユーロを受け取った。この資金は、スロベンスケ・コニツェ近郊の A1 高速道路のデヴィン高架橋と、同高速道路のポストイナ近郊のピウカ川に架かる橋の改築に使用される。欧州委員会は、欧州横断交通網(TEN-T)のシリウス・プロジェクトの一環として、この資金をスロベニアに割り当てた、とインフラ省が発表した。

【欧州議会選挙関連】

●欧州議会選挙でSDSが勝利、右派が5議席を獲得【9日】

9日、欧州議会選挙が実施され、スロベニアでは野党民主党(SDS)が勝利し、欧州議会の9議席のうち4議席を獲得することになった。与党の自由運動党(GS)が2議席を獲得し、緑の党ヴェスナ、社会民主党(SD)、新スロベニア党(NSi)がそれぞれ1議席を獲得した。投票率は41%を超え、5年前より12ポイ

ント高く、スロベニアの欧州議会選挙では2004年の第1回選挙以来、過去最高となった。

ヤンシャSDS党首は、同党が欧州議会の9議席のうち4議席を獲得したことを受けて、連立政権は大敗を喫したと述べた。

ゴロブ首相は、2議席を獲得したGSの選挙結果に満足していると述べた。また、同首相は、これまでの欧州議会選挙で、中道左派(リベラル)の政党がわれわれより良い結果を得たことはないと述べ、だからこそ「われわれは今後2年間、この信頼に取り組む必要がある」と付言した。

緑の党ヴェスナは、欧州議会議員1議席と第3位の得票率を獲得し、筆頭候補であるプレビリッチ・コチエウイェ市長は、これは素晴らしい結果だと述べた。

ハーンSD党首は、同党が欧州議会のスロベニア9議席のうち、これまでより1議席少ない1議席を獲得すれば満足できると述べた。しかし、同党首は、合わせて3議席を獲得したスロベニア連立政権の敗北であり、連立政権は比較的悪い結果を示したと述べた。

●スロベニアの欧州議会選挙投票率上昇はハンガリーに次ぐ【11日】

スロベニアは、今回の欧州議会選挙で2019年と比べて投票率上昇率が最も高かった国の一つであった。投票率は12ポイント増の41.4%となり、15ポイント上昇して約59%となったハンガリーに次ぐものとなった。欧州議会報道官による記者会見において、少なくとも14の加盟国で投票率が向上したと言及された。

●ヤンシャSDS党首、左派政党との再連立に警告【17日】

ヤンシャSDS党首は、欧州人民党(EPP)首相と野党党首の会合後、左派政党だけと再び連立を組むことは、欧州人民党(EPP)にとって敗北への道となりかねないと自身のXで述べた。ヤンシャ党首は、EPP、右派1党、左派1党の連立を呼びかけた。17日、ヤンシャ党首は、ブリュッセルでメローニ・イタリア首相、オルバン・ハンガリー首相、モラヴィエツキ・ポーランド前首相とも会談した。

●トムツ欧州議員、EPPグループ副議長の1人に選出される【19日】

欧州人民党グループ(EPP)はスロベニアのトムツ欧州議会議員(SDS)を10人の副議長のうちの1人に選出した。トムツ議員は、EPPグループの「明確な保守派」になると述べた。

●ヨヴェヴァ欧州議員、Renewの副代表に選出される【26日】

スロベニアのヨヴェヴァ欧州議会議員(GS)は、次期欧州議会のリベラル派政治グループ「Renew」の8

人の副代表の1人に選出された。ヨヴェヴァ議員は、すべてのEU市民の公益のために献身的に職務を遂行することを誓った。

●ゴロブ首相、EU新指導部の英知を信頼【28日】

ゴロブ首相は、EU首脳が27日にフォン・デア・ライエン現欧州委員会委員長、コスタ・ポルトガル前首相及びカッラス・エストニア首相の3名を今後5年間のEU指導者に指名することで合意したことを受け、EUの新指導部が、激動の時代を常識、知恵、楽観主義をもってEUを率いていくと信じていると述べた。

【外政・EU・防衛等】

●スロベニアによるパレスチナ国家承認【4日、5日、6日、7日、10日】

4日、国民議会は全会一致でパレスチナの独立を承認した。中道右派の野党は投票をボイコットした。スロベニアの政府高官らは同国による国家承認を歓迎した。

5日、スロベニアとパレスチナは外交関係を樹立した。サラ・アブデル・シャフィ・パレスチナ大使に承認書を手渡され、アッバース・パレスチナ大統領は、ゴロブ首相に電話で謝意を表明した。

6日、アッバース大統領はピルツ＝ムサル大統領と電話会談しこの動きを歓迎した。また、7日、ムスタファ・パレスチナ首相は、ファヨン外相と電話で会談し、スロベニアがパレスチナを承認したことを歓迎した。

10日、イスラエル外務省は、プルカルト＝マルティネス・スロベニア大使を召喚し、パレスチナ承認に関するスロベニアの「誤った決定」に対する同国の批判を伝えた。プレスリリースの中で同省は、この動きはEUの政策や、同じ考えを持つ大多数の国の立場に反するものであり、テロリズムへの報いであると述べた。

●アルメニア議会議長のスロベニア訪問【4日】

スロベニア訪問中のシモニャン・アルメニア議会議長はクラコチャル＝ズパンチッチ議長と会談し、二国間協力と南コーカサスの緊迫した治安情勢について協議した。シモニャン議長の訪問は、アルメニアとスロベニアの外交関係樹立30周年に際して行われた。

●ゴロブ首相、パレスチナへの250万ユーロの援助を発表【11日】

ヨルダンで開催されたガザ人道支援に関する国際会議に出席したゴロブ首相は、スロベニアは、国連のさまざまなプログラムを通じてパレスチナ人への追加援助として250万ユーロを提供すると発表した。100万ユーロはUNRWAに、100万ユーロは世界食糧計画に、50万ユーロはスロベニアの開発協力と人道支援を行う組織に配分される。

●ファヨン外相のモロッコ訪問【11日】

11日、ファヨン外相はモロッコを訪問し、ブリタ・モロッコ外相と会談を行った。両外相は、スロベニアとモロッコは、2025年にラバトとリュブリャナにそれぞれ大使館を開設すると発表した。また、両外相は、経済協力の強化、不法移民や人身売買との戦い、共通の関心分野、特に高付加価値分野における経済協力の新たな促進等について話し合った。

●スロベニア、ウクライナへの追加援助500万ユーロを計画【11日】

スロベニアは本年、ウクライナに人道・開発援助として500万ユーロを提供することを政府が決定した。この資金は、国際赤十字、OECD、同国で開発・人道プログラムを実施しているさまざまな機関などに提供される。

●ハーン経済相のセルビア訪問【12日、13日】

12日及び13日、ハーン経済相は、セルビアを訪問し、セルビアは南東欧におけるスロベニアの最も重要な貿易パートナーであると述べ、セルビアのEU統合に対するスロベニアの支持を再確認した。また、スマート製造業のためのイノベーション・センターの開所式や、西バルカン地域における交通インフラの課題に関するビジネス会議にも出席した。

●安保理で北朝鮮の人権侵害の非難に参加【13日】

ジュボガル国連安保理特使は、国連安全保障理事会の会合で、スロベニアを代表して、北朝鮮における長年にわたる組織的、広範囲かつ重大な人権侵害を非難した。会合に先立ち、スロベニアは数か国が発表した特別非難声明に加わった。ジュボガル特使は、北朝鮮の人権侵害が人道に対する犯罪に該当する可能性があるとした国連人権調査委員会の報告書から10年が経過しても、残念ながら北朝鮮の状況は変わっていないと述べた。

●ピルツ＝ムサル大統領のウクライナ平和会議出席【15日】

15日、スイスで開催されたウクライナ平和サミットに到着したピルツ＝ムサル大統領は、どのような和平協定を結び、どのような内容を受け入れるかを決定できるのはウクライナだけであると述べた。同大統領は、ロシアがサミットに参加していないとしても、平和サミット開催には必要性和便宜性があり、「この会談は長いプロセスの一部であり、その間にロシアも必ず会談に参加することになる。それ以外に方法はなく、話し合うしかない」と述べた。

●アラブ首長国連邦(UAE)外相のスロベニア訪問【14日】

ファヨン外相はアブダラー・ビン・ザーイド・アール・ナヒヤーンUAE外相と会談し、両国間の経済協力の強化、現在の国際的な課題、UAEを通じたガザの子どもたちへのスロベニアの援助の可能性について議論した。ファヨン外相は、UAEが観光、経済、交通、AI、自然エネルギーへの投資に関心を持っていることに満足感を示した。

●シャレット国防相、NATO閣僚会議に出席【14日】

シャレット国防相はNATO閣僚会議に出席し、NATOはウクライナ紛争の当事者ではなく、今後も当事者にはならないとの共通認識が必要だと強調した。また、ウクライナへの援助に関しては、各国は財政的、人道的、産業的な限界を認識する必要があると述べた。

●スロベニア、欧州宇宙機関への正式加盟協定に署名【18日】

パリ訪問中のゴロブ首相と欧州宇宙機関（ESA）のアッシュバツハー事務局長は、2025年初めにスロベニアがESAに正式加盟する協定に署名した。ゴロブ首相は、スロベニアは積極的に参加し、ノウハウ、専門知識、革新的なアプローチで貢献すると述べた。また、スロベニア政府とESAの間の協定は、今後議会で批准される必要があると付言した。

●スロベニアとオーストリア、デジタル化における協力を強化【18日】

スロベニアとオーストリアは、デジタル化と革新的技術および優良事例の交換に関する協力覚書に署名し、この目的のためのタスクフォースを設立することで合意した。覚書には、知識と経験の移転、デジタルスキル、クラウドコンピューティング、地方レベルでのデジタル化、サイバーセキュリティ、電子政府、AI、デジタルグリーンソリューション、低エネルギー消費のプロセッサと半導体の開発に関する協力が含まれている。

●スロベニア・ドイツ・ビジネス会議【19日】

19日、「Invest and Connect: Slovenian Business Pitch会議」と題したスロベニア・ドイツ・ビジネス会議がミュンヘンで行われ、両国の経済協力はここ数年で著しく強化され、主に宇宙技術、自動車産業、観光業において、まだ成長の余地があるとされた。ゴロブ首相は、欧州経済は繁栄の基盤である国際競争力の再構築という重要な課題に直面していると述べ、ハーネン経済大臣も出席した。

●ファヨン外相のヴァツハウ欧州フォーラム出席【21日】

ファヨン外相は、欧州諸国の複数の外相やポレル外務・安全保障政策上級代表とともにヴァツハウ欧州フォーラムに出席し、「EUの西バルカンへの拡大は、

今しかない」と述べた。ファヨン外相は、西バルカン諸国の閣僚が24日のEU外相会議に参加するというポレル外相の提案を歓迎した。

●シャレット国防省、コンボ駐留部隊を訪問【24日】

23日及び24日、シャレット国防相は、コンボ駐留スロベニア軍を訪問し、NATOコンボ軍(KFOR)司令官とも会談した。同司令官は現在の安全保障状況を説明し、スロベニア軍との優れた協力関係と部隊の高いモチベーションを強調した。シャレット大臣は、部隊は素晴らしい仕事をしており、現地の人々からもKFOR司令部からも高く評価されていると述べた。

●ポストイナでアドリア海地域安全保障サイバー協力演習が開始【24日】

スロベニア周辺地域の国々と米国の軍隊100人が、ポストイナで地域安全保障サイバー協力演習を開始した。スロベニアにおける同種の演習は最大。10日間にわたるアドリア海地域安全保障サイバー協力演習(ARSC2EX 24)の目的は、サイバー脅威に対する積極的な監視と対応の能力を向上させ、サイバー空間の保護における同盟国間の協力を改善することである。

●クロアチア国境問題、観光シーズンに影響か【24日】

国境管理をめぐるスロベニア・イタリア・クロアチア3国の議論は平行線が続いている。スロベニアはこれまで、不法移民の流入防止や各種犯罪捜査のため、クロアチア・ボスニア国境でのスロ・クロ・伊3国警察による合同検問の実施を要望してきたが、クロアチアは応じる姿勢を見せていない。今後、クロアチアが適切な代替措置をとらなければ、スロベニア警察はクロアチアとの国境でより徹底した対応をとらざるを得ないが、その場合、夏の観光シーズン中に国境付近で大規模な渋滞が発生するおそれも指摘されている。

●インドネシア外相のスロベニア訪問【26日】

ファヨン外相とルトノ・インドネシア外相はリュブリャナで会談し、ガザでの戦争終結を呼びかけた。ルトノ外相は、中東の紛争解決におけるスロベニアの役割と態度を賞賛し、ファヨン外相は、スロベニアはジャカルタに名誉領事館を開設すると発表した。ルトノ外相は、ガザ紛争解決におけるスロベニアの姿勢と役割を賞賛し、最近のパレスチナ国家承認を歓迎した。

●スロベニア軍、新型スパルタン機によるコンボへの空中輸送路を開始【26日】

23日、スロベニア軍は、C-27Jスパルタン輸送機の初公式飛行で大きな節目を示した。プリシュティナに着陸したことで、コンボへの空中の輸送路が開通

し、兵員や装備品の輸送が容易になった。将来的には、この航空機は自然災害の管理や消火活動にも使用される予定である。

●ポクルカル内相のザルツブルク・フォーラム出席【25日、26日】

25日及び26日、ウィーンでザルツブルク・フォーラムが開催され、スロベニアからはポクルカル内相が出席した。同内相は、最近採択された欧州移民・亡命協定へのコミットメントを強調するとともに、潜在的な法的その他のギャップに対処するための迅速な対応と柔軟性の重要性を強調した。

●ピルツ＝ムサル大統領のウクライナ訪問【27日、28日、29日】

27日から29日、ピルツ＝ムサル大統領はウクライナを訪問した。28日、同大統領は、キーウでゼレンスキー・ウクライナ大統領と、二国間安全保障協定と第2回ウクライナ和平会議の準備について会談した。両国はまた、スロベニアに一時避難しているウクライナ国民の支援に関する協力覚書にも署名した。さらに、ピルツ＝ムサル大統領は、ロシアの侵略によるウクライナの犠牲者を追悼するためにブチャを訪れた。

29日、ピルツ＝ムサル大統領はリヴィウを訪問し、第一次世界大戦のスロベニア人犠牲者とウクライナ防衛中に戦死した兵士に花輪を捧げた。同大統領は、ウクライナへの人道的援助の重要性を強調した。

●スロベニア、国連安保理決議違反の北朝鮮を非難【29日】

ジュボガル国連安保理特使は、北朝鮮とその安保理決議違反に関する29日の会合で、北朝鮮の行動を非難し、挑発行為をやめ、外交と対話に戻るよう求めた。

●ファヨン外相のドゥブロヴニク・フォーラム出席【29日】

29日、ファヨン外相は、世界経済と安全保障の課題に関するドゥブロヴニク・フォーラムに出席した。ファヨン外相は、EUは正しい価値観に基づいた例外的なプロジェクトであると強調した。ファヨン外相は、西バルカン諸国へのEU拡大を呼びかけた。

経済・統計・科学技術

●スロベニアの4月の輸出は49%増、輸入は34%増【4日】

スロベニアの4月の物品輸出は前年比48.8%増、輸入は33.8%増。統計局のデータによると、非EU諸国との貿易は、主にスイスとの貿易における再輸出の大幅な伸びにより、急激に増加した。スロベニア企業は4月に58億5,000万ユーロの商品を輸出し、

そのうち26億8,000万ユーロはEU加盟国向け、31億7,000万ユーロはその他の国向けだった。EU加盟国への輸出は前年比9.1%増、非EU諸国への輸出は114.7%増だった。

●IJSに100万ユーロ規模の新施設が開設【4日】

3日、ヨジエフ・ステファン研究所(IJS)は、核融合エネルギー技術の進歩を目的としたTRIGA核研究炉の新施設を正式に開設した。同施設の目的は、核融合炉の冷却中に強力な放射線がどのように、そしてなぜ発生するかを研究し、より安全な研究環境と原子炉の性能向上を実現することである。

●マリボルにデータセンターが建設【4日】

スーパーコンピューターを備えた最先端のデータセンターがマリボルに建設される。ドラヴァ川で水力発電所を運営する国営企業DEMは、この目的のために本社の土地の一部を国に売却した。政府は、2026年に完了する予定のこの1億ユーロのプロジェクトを、スロベニアのコンピューティングおよびデータ能力のさらなる発展の機会と見なしている。

●スロベニアの失業者数、過去最低を記録【5日】

スロベニアの失業者数は、5月末時点で44,088人となり、前年同月比6.6%減、前月比2.5%減となった。5月に新たに失業した人のうち3,861人が雇用サービスに登録し、4月より8.4%、前年同月より2.9%減少した。新規労働者に対する需要はやや冷え込んでいる。

●放射性廃棄物施設の定礎式【6日】

ゴロブ首相とヴィルシエク放射性廃棄物管理庁長官は、クルシュコ原子力発電所のすぐ隣のヴルビナで、長らく計画されていた低レベルおよび中レベル放射性廃棄物の貯蔵庫の定礎式を行った。9,300万ユーロ規模のプロジェクトの建設工事は、今秋に開始される予定。ゴロブ氏は、スロベニアは貯蔵施設を建設することで、グリーン・トランジションの前提条件の一つである核廃棄物貯蔵の問題に取り組んでいると述べた。施設は2027年に試験運用に入る予定だとヴィルシエク長官は述べた。

●S&PとDBRSモーニングスター、スロベニアの格付けを維持【8日】

格付け会社S&Pグローバル・レーティングスとDBRSモーニングスターはスロベニアの格付けを維持した(S&PはAA-、DBRSモーニングスターはA(高))。DBRSモーニングスターは、スロベニアに関する報告書で、同国が全般的に良好な状態にあるのは、よく発達した経済、効率的な債務管理、慎重な財

政枠組み、欧州機関への加盟によるものだとしている。

●中央銀行、2024年のスロベニアの成長率を2.5%に引き上げ【11日】

スロベニア中銀は、本年のスロベニアのGDP予測を昨年12月の2.2%から2.5%に引き上げた。2025年の成長率は0.3ポイント引き上げで2.6%となる。本年のインフレ率は0.6ポイント下方修正されて2.4%となったが、2025年のインフレ率は3%に達すると予測されている。ジュメル中銀副総裁は、「スロベニアの経済成長は本年後半に強まると予想している。2026年には成長率は長期平均の2.8%に達するであろう。」と述べた。

●スロベニア語がついにAppleのOSに搭載される【11日】

スロベニアのiPhoneユーザーは、まもなくスマートフォンをスロベニア語で使用できるようになる。スロベニアのポータル2社によると、Appleは、iOS18も今秋からスロベニア語で動作するようになる」と発表した。

●蜂蜜、果物の自給率は昨年大幅に低下【12日】

昨年、スロベニアでは悪天候により蜂蜜(76ポイント減の13%)と果物(13ポイント減の16%)の自給率が大幅に減少した。野菜の自給率は6ポイント減の33%であった。動物性食品の自給率は卵のみ増加し、肉は減少した。

●工業生産高、EUで最高の伸び【13日】

ユーロスタットによると、スロベニアの4月の工業生産高は3月比で5.9%増加し、前年同月比では7.4%増加した。ユーロ圏では3月比0.1%減、前年同月比3%減、EUでは3月比0.5%増、前年同月比2%減であり、スロベニアの成長率はそれぞれ4位と3位で、前年同月比でスロベニアの上はデンマーク(17.4%増)とギリシャ(10.8%増)であった。

●JSIによる発見、量子通信システムの進歩につながる可能性【14日】

ヨージェフ・ステファン研究所(JSI)とドイツのマックス・プランク研究所は、テレビ画面に使われているような液晶中の量子光の分野で画期的な発見をした。研究者らは、より効果的な量子通信システムの開発が可能になると述べた。

●新ベンチャーキャピタルファンド発足、ディープテック投資がターゲット【15日】

ディープテック・プロジェクトや新興企業への投資に特化した初の地域ベンチャーキャピタルファンドであるVesnaが発足した。同ファンドは現在、スロベニア

輸出開発銀行、クロアチア開発銀行、欧州投資基金から4,000万ユーロを調達し、個人投資家からも1,000万ユーロの出資を募っている。同ファンド代表者は、同ファンドの本質は、基礎研究を商業サービスに転換することだと述べた。

●スロベニア、2023年に初めて再生可能エネルギー目標を達成【18日】

クメル環境相は、スロベニアは昨年初めて再生可能エネルギー目標を達成し、総エネルギー消費量の25%以上を再生可能エネルギーで生産したと発表した。スロベニアは、過去3年間に約1,800万ユーロを費やした統計移転を購入する必要がなくなる。クメル大臣は、目標を達成することでスロベニアの信頼性が高まり、自立性が高まると述べた。2024年の予測では、スロベニアは引き続き目標を達成できる可能性があるが、2025年はまだ予測が立っていない。

●IMD世界競争力ランキングでスロベニアがさらに4つ順位を下げる【18日】

スロベニアは、毎年恒例のIMD世界競争力ランキングでさらに4つ順位を下げ、調査対象となった67か国中46位となった。スロベニアは2023年にも4ランク下げており、これはほとんどのヨーロッパ諸国の傾向を反映している。スロベニアの競争上の優位性、または最も高い順位にある分野は、国際貿易(8位)、価格水準(18位)、高い平等性と安全性を保障する社会枠組み(20位)、教育(24位)であり、前年とほぼ同じである。

●テレマツハ、T-2を買収する意向【19日】

通信会社テレマツハ・スロベニアは、ライバル会社T-2のオーナーであるGarnol社との間で、T-2の少なくとも98.06%の株式を取得する意向を表明する契約を締結した。テレマツハ社は、デューデリジェンス審査が行われた後、Garnol社と株式購入契約を結ぶ見込みであり、これによりT-2は迫り来る管財管理を回避できる可能性が高い。テレマツハ社は、株式取得後は、SSHに対する義務も含め同社が義務を果たすよう保証すると述べた。

●FLIQA、年間最優秀スタートアップに選出【19日】

2024年のスロベニア最優秀スタートアップは、オープン・バンキングで2つの製品を開発し、多くのヨーロッパの銀行へのアクセスを提供しているFLIQA社が受賞した。同賞主催者(スタートアップ・スロベニア。経済・観光・スポーツ省及びスロベニア企業基金が共催)は、同社は事業展開に成功し既存企業との戦略的パートナーシップを築いていると述べた。

●食品宅配会社Ehranaが復活【19日】

スペインの食品宅配会社Glovo社は、2021年にEhranaを買収し、本年5月にスロベニアから撤退したが、Ehranaブランドはスロベニア市場に戻ってきた。Glovoの元営業責任者がEhranaブランドを買い取り、すでにサービスを開始しており、2週間で70以上のレストランがEhranaに加盟し、アプリのユーザー登録も2,000人を超えた。

●6月の消費者信頼感は改善【20日】

統計局は、6月のスロベニアの消費者信頼感は改善し、前月比で3ポイント、前年比10ポイント上昇したと発表した。月レベルでは、消費者の現在の家計状況に関する意見と国内の経済状況に関する期待という2つの要素がそれぞれ5パーセント上昇し、指数を押し上げた。

●スロベニア、一人当たりGDPと消費でEU平均を下回る【21日】

スロベニア統計局(SURS)が発表したユーロスタットのデータによると、2023年にスロベニアは購買力基準による一人当たりGDPのEU平均の91%に達したが、実際の個人消費はEU平均より13%低かった。スロベニアの食品価格はオーストリア、イタリア、クロアチアよりも低かった。

●2022年の新規企業数は前年比9%増加【21日】

2022年にスロベニアで設立された新規企業数は合計21,833社で、前年より約9%増加し、統計局がこのデータを調査し始めた2004年以降で最大の数となった。ほとんどの分野で企業数が増加したが、新規企業数が最も多かったのはホスピタリティを含むサービス部門で、全体の83%弱を占めた。

●エネルギー部門企業が売上トップ300を独占【24日】

デロ紙が発表したスロベニアの売上高上位300社のリストでは、エネルギー部門の企業が上位を占め、デロ紙はエネルギー価格の高騰が一因とした。トップは、年間売上高約56億ユーロの燃料小売業者ペトロロール社で、電力会社HSEと排出権取引業者Belektronが続いた。

●規制当局、NKBMとSKB Bankaの新銀行への合併を承認【27日】

欧州中央銀行とスロベニア銀行は、NKBM銀行とSKB Bankaの合併を承認した。合併は8月22日に予定されており、合併後の銀行名は翌日にOTP Bankaに変更されるとNKBMは発表した。新銀行の本店はリュブリャナに置かれる。

●第1四半期の一般政府の赤字と債務は減少【28日】

統計局の発表によると、2024年第1四半期のスロベニアの一般政府赤字は3億900万ユーロ、スロベニアのGDPの2%となり、前年同期比で1.1ポイント減少した。一般政府債務は454億ユーロ、対GDP比70.7%となり、1.5ポイント減少した。一般政府部門の歳入総額は13四半期連続で増加した。歳入総額は前年同期比11.4%増の70億6,000万ユーロであった。

●6月の年間インフレ率は1.5%に【28日】

スロベニアの6月の年間インフレ率は1.5%と、2021年6月以来の低水準を記録した。1年前のインフレ率は6.9%であった。サービス価格は依然として消費者物価上昇の原動力であり、主にホテルやレストランの価格上昇によるもので、1年間で4.2%上昇した。物品価格は0.2%上昇し、エネルギー価格はインフレに強い下押し圧力をかけた。

●2023年の対内直接投資残高、9%増加【28日】

スロベニア銀行の速報値によると、スロベニアへの対内直接投資残高は1年間で9.1%増加し、2023年末には221億ユーロに達した。これは主に再投資利益によるもの。スロベニアへの最大の投資家はオーストリア(全体の21.6%)、次いでルクセンブルク(13.1%)、スイス(11.0%)であった。スロベニアの対外直接投資額は9.7%増の94億ユーロと、わずかに増加した。スロベニアの投資家が最も多く保有したのは、クロアチア(全体の35.4%)とセルビア(20.4%)であった。

治安・事件事故

●覆面自警団が過激な反移民アピール【5日】

5日夜、リュブリャナ市中心部において、「スロベニア防衛隊」を名乗る覆面の者約50人が反移民の抗議パフォーマンスを行った。この集団は先月初旬、移民に対する過激な内容の動画にネットに投稿し、批判を集めていた。警察はすでに同集団の構成員を特定しており、監視を続けている。また政府では、過激な扇動行為を犯罪として取り締まるための法改正も進められているとのことである。

●蚊媒介疾病が欧州全域で増加【12日】

欧州疾病予防管理センター(ECDC)は、デング熱やジカ熱など蚊媒介疾病が欧州で増加傾向にあることを警告した。これは気候変動の影響で、ウイルスを媒介する外来種の蚊の生息域が拡大していることによるもの。スロベニア国内でも蚊の繁殖が確認されていることからECDCは、防虫ネット・虫よけ剤の活用

や、庭等に溜まった水の除去など、蚊のリスクを減らすための対策を呼び掛けている。

●ATM連続爆破強盗犯を逮捕【24日】

警察は、先月からリュブリャナ等で連続発生していたATM爆破強盗の容疑者として、クロアチア国籍の男3人を逮捕した。同人らは19日のノヴォ・メストでの犯行の直後、陸路出国しようとしたところを警察に捕捉された。関係場所の捜索では犯行に使用された凶器等が押収されており、警察はほかにも共犯者がいるとみて捜査を続けている。

●オンライン宿泊予約詐欺に注意【28日】

国家サイバーセキュリティ対処センター(SI-CERT)は、オンライン宿泊予約詐欺について注意喚起した。施設の管理者プロバイダに不正アクセスして顧客情報を窃取したり、ユーザーを偽の広告サイトに誘導して口座情報を入力させたりといった詐欺が増加しているという。好条件にもかかわらず極端に価格が安いなど、不自然な宿泊プランが提示されるサイトは詐欺である可能性が高い。そのため専門家は、写真・住所・ユーザーレビューをしっかりと確認する、宿泊施設の公式予約サイトを通じてのみ予約を行う、といった対策の徹底を推奨している。

●山の事故が急増【29日】

夏が近づく中、山岳事故が増加している。6月中に実施されたヘリコプター救助は33件にのぼり、転倒事故の負傷者や高山病による体調不良者などが多

数搬送された。装備不十分な外国人旅行者の救助事案も多く発生しているため、警察は改めて注意を促すとともに、適切な情報収集と装備の重要性を強調している。

社会・文化・スポーツ

【スポーツ】

●スロベニア男子バレーボールチームがパリ五輪出場権を獲得【19日】

スロベニア男子バレーボールチームは、リュブリャナで開催されたネーションズリーグトーナメントの初戦でアルゼンチンを破り、パリで開催される夏季オリンピックへの出場権を獲得した。スロベニア男子バレーボールチームがオリンピック大会でプレーするのは、これが史上初となる。

スロベニアは準決勝で日本に敗れたが、4位に入賞して大会を終えた。

●サッカー欧州選手権でスロベニアがベスト16入り【25日】

サッカー欧州選手権(ユーロ2024)で、スロベニアは強豪イングランドと引き分け、史上初となる予選突破・ベスト16入りを果たした。スロベニアはこれまで、欧州選手権に1回、FIFAワールドカップに2回出場していたが、いずれも予選敗退していた。

(その後スロベニアは、7月1日の試合で強豪ポルトガルに惜敗。準決勝進出はならなかったものの、国内ではチームの健闘をたたえる声が多数上がった。)

スロベニア日本国大使館

電話: +386-1-200-8281 又は 8282 Fax: +386-1-251-1822、Email: info@s2.mofa.go.jp

Web: http://www.si.emb-japan.go.jp/website_jp/index_j.html

●本資料は、スロベニアに関心のある方であれば誰でも受け取ることができます。新たに配信を希望される方、あるいは今後配信を希望されない方は、以下のメールアドレスにご連絡ください。

info@s2.mofa.go.jp

【領事班からのお知らせ】

●スロベニアに90日以上滞在される方は、在留届を提出してください。在留届は、渡航前にオンラインで提出することも可能です。また、住所・連絡先の変更、同居家族の追加など、提出済み在留届の記載事項に変更が生じた場合は「変更届」を、帰国や当館管轄地域外へ転出する場合は「帰国・転出届」を必ずご提出ください。

特に、当館からの重要な連絡が確実に皆様が届くよう、Eメールアドレスや携帯電話番号の変更は速やかに届出をお願いいたします。

●大使館で受け付けている手続の一部は、夜間、休日等を問わずオンラインで実施可能です。詳しくは以下のリンク先をご確認ください。

【在留届】 <http://www.ezairyu.mofa.go.jp/>

【各種証明・手数料決済】 https://www.si.emb-japan.go.jp/itpr_ja/11_000001_00834.html

【旅券(パスポート)】 https://www.si.emb-japan.go.jp/itpr_ja/11_000001_00740.html

●現在マイナンバーカードを持っていない国外在住者(2015年10月5日以降に国外転出をした方に限る。)も、マイナンバーカードの発行を受けられるようになりました。申請は在外公館窓口等で可能です。詳しくは以下のリンク先をご確認ください。

【外務省 HP】 <https://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/todoke/maina.html>

●海外に住んでいる人が、外国にいながら国政選挙に投票することを「在外投票」といいます。在外投票ができるのは、日本国籍を持つ18歳以上の有権者で、在外選挙人名簿に登録され、「在外選挙人証」を持っている人です。在外選挙人証の交付手続は、申請から受け取りまでに通常約2か月かかります。交付を希望される方は、余裕を持って申請を行ってください。

●当地での在留許可手続等で必要となる警察証明(犯罪経歴証明)については、申請から受け取りまでに通常約2か月かかります。交付を希望される方は、余裕を持って申請を行ってください。

●ところがモヤモヤしたり、ざわついたりするときは、相談してみませんか？

外務省は、特定非営利活動法人と連携して海外在住日本人の孤独・孤立対策の支援を行っています。海外にいても、SNSやチャットを使って日本語で相談できます。相談は無料です。

【外務省HP:孤独・孤立及びそれに付随する問題でお悩みの方へ】

<https://www.anzen.mofa.go.jp/life/info20210707.html>

【広報文化班からのお知らせ】

●スロベニア語字幕付 Japan Video Topics 配信中

当館 YouTube チャンネルにおいて、日本の文化や技術を紹介する Japan Video Topics のスロベニア語字幕版(英語音声)を配信しております。

Embassy of Japan in Slovenia - YouTube

●最新情報は、当館フェイスブックでチェック！

<https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia/>